

事務事業評価シート(総括表)

事務事業	15	絵本でふれあう子育て支援					
章	1	健康でおもいやりのあるまち					
大項目	02	地域とともに育む福祉社会づくり					
施策	04	子育て支援の推進					
事業内容							
目的	絵本を介して親子が楽しくふれあえる育児環境づくりができるように支援することで、乳幼児の心健やかな成長をめざします。						
対象・手段	区内に在住する乳幼児の保護者が対象です。 保健センターで実施する乳幼児(3-4か月児)健診の際に、乳幼児に対する絵本の読み聞かせの意義を説明して、ブックスタートパック(絵本2冊、コットンバッグ、イラストアドバイス集、ブックスタートメッセージ)を配付します。						
成果(事業が意図する成果)							
絵本を介したふれあい習慣のある親子を増やし、乳幼児の心健やかな成長を促すことができます。							
事業成果指標							
指標名	定義	目標水準					
絵本配付(意義の説明含む)率	3-4か月児健診受診者/対象者 (絵本配付時に、読み聞かせの意義・方法等の説明を併せて行うことが必要であり、郵送等による配付はしていないことから、現状では3-4か月児健診の受診率となりま	(平成19年度に	(95%)の水準達成				
赤ちゃんへの絵本読み聞かせ習慣の定着率	読み聞かせを習慣にした保護者/絵本の配付を受けた保護者	(平成19年度に	(80%)の水準達成				
		()年度に	()の水準達成				
成果の達成状況							
	単位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	備考	
事業成果指標	目標値1	%	95.00	95.00	95.00	95.00	
	実績1	%	92.00	92.30	92.00	91.50	
	= /	%	96.84	97.16	96.84	96.32	
	目標値2	%	80.00	80.00	80.00	80.00	
	実績2	%	70.00	82.00	82.00	82.00	
	= /	%	87.50	102.50	102.50	102.50	
	目標値3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	実績3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	= /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
事業の実施内容							
平成18年度	3-4か月児健診時に対象者にブックスタートパックを配付。 ・配付実績 1,883件						
平成19年度	3-4か月児健診時に対象者にブックスタートパックを配付。 ・配付実績 1,924件						

部名称		中央図書館（部）		課名称		中央図書館（課）	
		単 位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	備 考
トータルコスト	事業費	千円	2,924	3,784	3,967	3,619	
	人件費	千円	2,168	2,168	2,153	2,148	
	事務費	千円	0	0	0	0	
	減価償却費等	千円	0	0	0	0	
	総計 = + + +	千円	5,092	5,952	6,120	5,767	
	受益者負担	千円	0	0	0	0	
	純計 = -	千円	5,092	5,952	6,120	5,767	
	受益者負担率 /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
財源内訳	一般財源 = -	千円	5,092	5,952	6,120	5,767	
	特定財源		0	0	0	0	
	一般財源投入率 /	%	100.00	100.00	100.00	100.00	
職員	常勤職員	人	0.26	0.26	0.26	0.26	
	非常勤職員		0.00	0.00	0.00	0.00	
事業に関する検討課題							
<p>絵本を介して親子がふれあい、また、家庭での読書習慣の定着につながるよう、配付した絵本をどのように活用するかなど、実施後のフォロー方法について、検討していく必要があります。</p>							
評価基準に基づく評価と理由 「3・2・1」の3段階評価です。	達成度	2	3-4か月児健診受診者全員に配付し、絵本を介して親子がふれあうきっかけをつくるという点で、ほぼ計画通り進めています。また、フォロー体制についてもボランティアを受け入れ、家庭での読み聞かせの習慣化につながるよう充実を図っています。				
	実施の成果	2	1歳6か月児健診の時期にアンケートを実施し、8割の方に満足していただいています。				
	効率性	2	出生後、最初に保護者等が集まる3-4か月児健診の機会を利用しているため、新たな人員の投入、配送料等発生させることなく、対象者のほとんどに対して事業を実施できしており、効率的です。				
	行政の関与	3	地域で生まれたすべての赤ちゃんとその保護者を把握するのは民間団体には不可能であることから、区が関与する必要があります。				
	妥当性	2	子どもが読書に親しみやすくなるように、親が子どもに絵本を読み聞かせるきっかけをつくるという点で、目的・手段・対象がほぼ妥当と考えます。				
	施策寄与度	3	絵本を介して親子が向き合うことで心もふれあい、より安定した母子等の関係づくりが行いやすくなります。このことによって、子育てを楽しむ心のゆとりが生まれ、前向きな子育てに取り組む区民を増やすことに寄与していると考えられます。				
総合評価	19年度の評価をBとした理由は、設定した2つの数値目標で80%以上の目標達成率を実現し、絵本を介して親子がふれあうきっかけづくりをする事業目的を概ね計画どおりに達成することができたからです。また新たに策定した「第二次新宿区子ども読書活動推進計画」において、今後の事業展開の方向付けが出来ました。過去3年間の実績では、配付後の家庭における絵本読み聞かせ習慣の定着について、地域で活動している読み聞かせボランティアの活用により、着実に成果を挙げているため、Bと評価しました。						
	B						
改革方針	過年度評価						
	18年度 B						
	17年度 B						
16年度 B							
15年度							
方向性							
<p>絵本配付後の家庭における読み聞かせ習慣を定着化させるため、読み聞かせのより具体的な方法や図書館の活動についての情報提供等を図るなど、多くの親子が絵本を介してふれあい、子どもが読書に親しめる環境づくりを支援していきます。</p> <p>平成20年度からは本来の図書館業務の一貫として位置づけ、第一次実行計画「12 絵本でふれあう子育て支援事業」に引き継いで、積極的な展開を図っていきます。</p>							
2							
手段改善							